

その時々
の思いを
唄、三線に込めて

三田 智恵さん（36歳）
水沢区字桜屋敷



今では、一人娘の涼さんも共にステージに立つ

CONTENTS

- 2 情熱の奥州人
- 4 資源物の集団回収
- 6 北東北インターハイが閉幕
- 8 2011 おうしゅう夏まつり グラフ
- 10 国民健康保険証を更新します
大腸がん検診無料クーポン券を配布します
- 11 市の出来事から
- 12 まちの話題
- 14 つながれ 広がれ NPOの輪
- 16 子そだて広場
わが家のアイドル
- 17 消費生活相談
市長コラム「おうしゅう羅針盤」
子ども喜ぶ人気メニュー
- 18 キラリ人輝く
夢トーク
- 19 クラブ紹介
ほんたのつぶやき
- 20 くらしの情報
- 24 奥州遺産

〈今月の表紙〉



今年で25回目を迎える「よちよち歩き大集合」が、8月21日衣川区の保健福祉センターで開催されました。この日集まった1歳児は32人。1升の餅を背負った子どもたちが、その重さにふらつきながらも、10分先のゴールを目指しました。写真はお姉ちゃんに支えられながら、一生懸命に歩みを進める一コマ。そのほほえましい姿に、会場からは温かい声援が送られていました。

華やかな琉球紅型に身を包み、伸びやかに沖縄民謡を唄う三田智恵さん。
小学校から高校までは、バレールールに打ち込むスポーツ少女だった。高校時代に訪れたバンドブーム。智恵さんも、市内で行われるアマチュアバンドのライブへ頻繁に足を運んだ。「高校3年生の文化祭では、バンドを組んでギターを弾いたんですよ」と照れくさそうに笑う。
子育てと仕事……。ほかのことには脇目も振らず、夢中で駆け抜けた20代。
三線との出会いは、平成16年の母子二人で訪ねた沖縄旅行。食堂のお兄さんが爪弾く三線の音色は、無我夢中で働いてきた智恵さんの心に大きく響いた。「初めて聴く沖縄

民謡に、ただただ涙が止まらなかった」と運命的な出会いを振り返る。
「三線が弾きたい」。仲間と美童三線会を立ち上げ、北上を拠点に活動を始めた。沖縄の音楽を聴いてほしい……。祭りやイベント、老人ホームの慰問など、メンバーの思いはステージを選ばない。
仲間と演奏するポップスも楽しいけれど、沖縄民謡を極めたい。その思いを抑えきれず、幾度も沖縄へ渡る。「その時々思いを込めて、自由に唄えるのが魅力」と優しい笑みを浮かべた。
「自分の唄で、沖縄民謡の魅力、思いを届けたい」。智恵さんの思いは、どこまでも青い沖縄の空のように広がっていく。



みた・ともえ◎昭和50年水沢区字桜屋敷生まれ。自動車整備工場勤務。29歳で三線に出会う。美童三線会メンバー。娘、父、母の4人暮らし